

命を守る避難の課題 講演会

主催 公益社団法人 日本地震工学会

東日本大震災では適切な避難が出来ず大変多くの方が亡くなった。首都直下地震や南海トラフ巨大地震では甚大な被害が予測され複合型災害にも対処した避難が必要になる。日本地震工学会「津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会」は、これらの突然襲ってくる大災害から命を守る避難の課題について調査研究を行ってきた。国際的な事例の収集、避難対策に資するシミュレーション技術の開発も行っており、この講演会ではそれらの成果を防災に関わる実務者・市民向けに紹介する。（企画：津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会）

日時：2014年2月7日（金）10:30～12:00

場所：パシフィコ横浜・アネックスホール2階203会場

（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

プログラム：（10:30～12:00）

開会挨拶 後藤洋三（津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会委員長・東京大学地震研究所 外来研究員）

1. 大津波からの避難の課題と対策 — 1万8千余名の死者行方不明者が残した教訓 — 後藤洋三（東京大学地震研究所 外来研究員）

東日本大震災で大津波に襲われた岩手県・宮城県沿岸部の被災者1,300名へのヒヤリング・アンケート調査と死者行方不明者800名の行動調査から分かったことを、危険の衆知、情報の伝達、避難の方法、そして社会防災力の観点から整理し、命を守る避難の課題について「たてまえ」や「かけ声」の前にあるべき対策を述べる。

2. 大都市における避難の課題と対策

久田嘉章（工学院大学・建築学部・教授）

東日本大震災では首都東京は膨大な数の帰宅困難者等で大混乱になった。今後、大都市の減災対策には震災・火災だけでなく、多数の被災者や水害（津波・洪水・高潮）のなど複合都市型災害への対応も同時に考える必要がある。本講演では大都市における避難対策の現状と課題、及び、具体的な対策事例などを紹介する。

3. 避難シミュレーションの最先端

末松孝司（東京工業大学・大学院総合理工学研究科・連携教授）

今後予想される大震災の被害軽減のための対策はハード整備だけでなく、ソフト（計画、活動、情報）の整備が大変重要であり、効果的であることが、東日本大震災、各地のゲリラ豪雨や土砂災害で明らかとなった。そのソフト対策をとるうえで効率的な手段としての避難シミュレーション技術の最前線の動向、特に各種シミュレーションモデルによる結果の妥当性や信頼性を担保するための検証活動について紹介する。

- 定 員：150名（先着順）
- 参加費：無料（事前申込者には講演資料を配布します）
- 申込方法
 - (1) 参加の方は、「命を守る避難の課題」として、氏名、勤務先（参加者が2名以上の場合それぞれのお名前）連絡先住所、電話番号、メールを明記して、メールまたはFAXのいずれかでお申込みください。
 - (2) 参加証はメールまたはFAXにてお送りいたします。
 - (3) 当日、参加証を持参の上、講演資料と引き換えてください。
- 申込み・問合せ先：日本地震工学会事務局
〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館
電話 (03) 5730-2831、FAX (03) 5730-2830
メールアドレス：office@general.jaee.gr.jp

講演会 講師紹介



後藤 洋三（ごとう ようぞう）工学博士

1965年3月 京都大学工学部土木工学科 卒業
1967年3月 京都大学大学院工学研究科 修了
1967年4月 (株)大林組技術研究所入所
2001年4月 西日本工業大学 教授
2002年4月 独立行政法人防災科学技術研究所川崎ラボラトリー 所長
2008年4月 東京大学地震研究所 外来研究員 現在に至る

専門：地震工学、防災工学

主な学会・社会活動：日本地震工学会名誉会員、同スペシャルアドバイザー、同理事（2001-2002）、日本地震工学会津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会・委員長、土木学会地震工学委員会・委員長（2001-2005）

主な発表歴：後藤洋三、津波避難の実態と課題、2013年日本地震工学会第1回社員総会基調講演、24/5/2013、後藤洋三ほか、スマトラ北部西方沖地震で生じたバンダアチェ住民の大規模避難行動の調査と分析、土木学会論文集A1（構造・地震工学）Vol.69 No.4 ppI_182-I_194、後藤洋三、津波情報と避難行動の関係、土木学会地震工学委員会津波避難調査小委員会報告会講演集（DVD出版）、11/2012



久田 嘉章（ひさだ よしあき）工学博士

1984年3月 早稲田大学理工学部建築学科 卒業
1986年3月 早稲田大学大学院理工学研究科 修了
1986年4月 早稲田大学工学部建築学科 助手
1993年4月 南カルフォルニア大学地球科学科 助手
1995年4月 工学院大学建築学科 助教授を経て、同大学建築学部まちづくり学科・教授 現在に至る

専門分野：工学地震学、地震工学、構造工学、地震防災

主な学会・社会活動：内閣府・防災対策推進検討会議・首都直下地震対策検討WG・委員、文部科学省・地震調査研究推進本部・調査観測計画部会・委員、気象庁・長周期地震動に関する情報のあり方検討会・長周期地震動予測技術検討WG・主査、新宿区防災会議・委員、日本地震工学会・理事、会誌編集委員会・委員長、日本建築学会・構造部会振動運営委員会・委員、免震構造協会 入力地震動小委員会・委員長、日本地震学会 災害調査委員会・委員、強震動委員会・委員

主な発表歴：久田嘉章ほか、2011年福島県浜通り地震の地表地震断層の近傍における建物被害調査、日本地震工学会論文集、Vol.12, No.4, pp.104-126, 2012、久田嘉章ほか、強震動予測手法に関する

ベンチマークテスト：理論的手法の場合（その2）、日本建築学会技術報告集 第38号 pp. 101-106, 2012、久田嘉章ほか、2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報、4.4.4 超高層建物の現状（分担）、日本建築学会、pp.116-180、2011



末松 孝司（すえまつ たかし）工学博士

1984年3月 広島大学工学部第四類土木工学科 卒業

1984年4月 東急建設(株) 入社

1990年6月 米国セントルイス大学 MBA

1994年8月 東急総合研究所

2005年4月 (株)ベクトル総研 代表取締役 現在に至る

2006年10月 東京工業大学 非常勤講師を経て同大学 連携教授 現在に至る

専門：群集・道路交通シミュレーションシステム開発と防災教育（駅、高層ビル、イベント会場、津波避難の群集シミュレーション技術の開発）

主な学会・社会活動：土木学会、日本地震工学会、日本集団災害医学会、科学技術振興調整費評価委員（地球・防災WG）

主な発表歴：首都直下地震および海溝型巨大地震と超高層建築の地震防災対策（日本建築学会関東支部シンポジウム講演2006）、シミュレーションモデルを活用した防災マニュアルシステム研究（日本集団災害医学会2007）、住民・自治体協働による防災活動支援情報収集・共有システムの開発（共著 日本地震工学会2009）